

原 著

## 看護のアイデンティティー、その8：新人看護師の看護資質の 価値観は学生に比して年長の看護師の価値観に類似する。

工藤 二郎\* 小田 日出子\* 窪田 恵子\* 中馬 成子\*\*

### <要 旨>

この研究は、看護職のアイデンティティーを明確にして看護学生を教育する目的で行った。我々はこれまでに看護職のアイデンティティーについて学生と看護師のアンケート結果を7報にわたって分析してきた。今回は、看護師の資質の8キーワードについて、本学卒業後2ヶ月の新人看護師から得たアンケート結果を学生と看護師のそれと比較検討した。

アンケートは本学の卒後2ヶ月の新人看護師59名、2年目の看護師58名、卒後3年目の看護師63名に送られ、本学入学後4ヶ月目の看護学科1年生99名にも依頼した。新人看護師による回答は30通、2-3年目の看護師による回答は36通であり、看護学科1年生からの回答は22通であった。彼女らの回答に基づき、最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていくという操作を行い、1番から22番の各キーワードの得点を新人看護師、看護師と学生の3種類にデータベース化した。第二報の結果にもとづき、まず、年長の看護師になることにより平均点が高まる、自己省察、着実、自信、自らの役割を理解する、の4つを新人看護師による平均点と比較し、平均値の検定である分散分析を行った。次いで、逆に学生で平均点が高く年長の看護師で低い、清潔、変化の豊かさをもつ、慎重、仕事の総体を理解する、の4つを同様に検討した。平均値の相違が大きい“自己省察”と“清潔”は統計的に有意な相違と計算された。これらについて新人看護師の価値観は年長看護師の価値観と同様で学生の価値観とは異なっていた。自己省察に関する学生教育の可能性について考察した。

キーワード：アイデンティティー、看護教育、自己省察、資質、看護学生

### はじめに

看護職のアイデンティティーを明確にして看護学の教育をすることはあらゆる看護大学の課題である。われわれはこれまでに看護のアイデンティティーに関する7つの報告を行ってきた。<sup>1)~7)</sup>それらは看護に関するキーワードの選択と質問表の作成に始まり、看護師の資質や個人的行動、社会的行動、看護技術、看護倫理の5カテゴリーにおいての看護師と学生との価値観の相違を検討したものであった。

この報告では、第一報により抽出された152キーワードのうち第一カテゴリーに属する看護師としての資質の語句<sup>2)</sup>について、看護職について2ヶ月程の新人看護師と看護学科1年生、看護職の経験が1年を

越えている看護師の3グループの価値観の相違について報告する。

最近、Watson<sup>8)~10)</sup>らは、看護学生に対し、ケアリングの認識をどの程度、また、どのような過程で学んでいくかを調査票によって測定しようとする試みを行った。彼らは看護教育の成果をそれによって測定することができるとしている。また、同様な方法で八尋<sup>11)</sup>は各学年の看護学生の価値観を、倫理特性とケアリングのとらえ方から検討し報告した。彼女は、「倫理特性調査票」と「ケアリングのとらえ方調査票」の質問票で学年間の変化を計測し、学年が進むにつれ有意差の見られる倫理特性の因子やケアリングのとらえ方があることを報告している。さらに島田<sup>12)</sup>は、波多野・小野寺<sup>13)</sup>によって作成された職業的アイデンティティー

\* 西南女学院大学保健福祉学部看護学科 教授

\*\* 順心会看護医療大学 准教授

尺度をもとに5段階尺度にてアイデンティティの確立要素を分析し、習得、獲得、熟練などの過程が看護教育に重要であることを見出している。

我々の研究は上記の各研究とは目的が異なり、本学の看護学生と本学を卒業した新人看護師、さらに年長の看護師という関連の強い3集団を対象とし、この3集団間の差異を比較し、その結果をカリキュラムの参考にして学生の早期教育に役立てようとしている。この研究により、学生と新人看護師の差を検討する事により本学の看護教育の成果を想像することができる。さらに、新人看護師と年長看護師の価値観の差が統計的に有意であるかどうか明らかにすることができる。また、看護師になった時点での重要な価値観を言葉によって特定することにより、その教育法について考察し実行しうることが期待される。

## 方法

### 1) アンケートとその中の各キーワードの配点法及び操作

アンケートの内容は既報の通り<sup>2)・6)</sup>であるが、簡単に説明する。著者らが看護学生の看護職に関するレポートより抽出した152キーワードは、1) 個人的資質、2) 看護職に望まれる態度・行動、または個人的な行動、3) 他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動、または社会的な行動、4) 専門的な看護技術、5) 専門倫理的な態度・行動、または看護倫理の5つに区別された<sup>1)</sup>。この各5カテゴリーより10の重要な語句を各人に選んでもらい、学生や看護師が最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていくという操作を行った。これにより選ばれたキーワードに10段階の得点差を与える事ができる。アンケートは本学の卒後2ヶ月の新人看護師59名、2年目の看護師58名、卒後3年目の看護師63名に送られ、本学入学後4ヶ月目の看護学科1年生99名にも依頼した。なおこの研究は本学の倫理審査委員会で承認されたものである。

今回の分析は第一カテゴリー、個人的資質についてである。各キーワード番号順に得点を抽出、総和し、各キーワードの総得点を全看護師回答数で除して平均し「看護師資質指数」とした。学生にも同様の操作を行って各キーワードの「学生資質指数」を求めた。この平均値の比率が高いものほど看護師になって重要性の高まるものと判断した。

### 2) 1年以上経験のある看護師と学生とで価値観の差が顕著なキーワードの抽出

得点の平均値にて、看護師得点/学生得点の比が最も高いものから降順に並べると学生に比し看護師が重要と考える概念の順番が明らかとなる。一方、その比が最も低いものは学生が看護師に比して重要と考えるものである。この操作によって平均値の差の顕著なキーワードが抽出される。上位4個、下位4個の8キーワードを抽出した。

### 3) 平均値の検定

第2報で名付けた看護師資質指数と学生資質指数は、看護師と学生が配点をした各キーワードにおける得点の平均値であり、これらの間に差があるかどうかは平均値の検定である一元配置分散分析によって行われた。分散分析は統計ソフトを用いて行い、有意水準5%で検定した。

## 結果

### 1) アンケート回答数

1年を超えて看護経験のある看護師、すなわち2年目または3年目の看護師による回答は36通であった。就職1年目の看護師からの回答は30通であった。本学看護学科1年生からの回答は22通であった。この中には看護職の経験のある学生はいなかった。

### 2) 抽出されたキーワード

看護師得点/学生得点の比が高いものから降順に並べられた(表1)。表では看護師得点/学生得点を資質変化指数とし、最右列に置いている。看護師が学生に比し最も重要と考えるものは自己省察であり、以下、着実、自信、自らの役割を理解する、が続く。逆に、その比が低いものは学生が重視するものであり、学生が重視する順に、清潔、変化の豊かさを持つ、慎重、仕事の総体を理解する、となる。これら8キーワードについて平均値の検定を行った。

### 3) 平均値の検定

一元配置分散分析は分散分析表で表わされた。3組を同時に表にすることも可能であるが、一見して理解可能なように、学生と看護師、学生と新人看護師、看護師と新人看護師の3組の分散分析表を示す。8つのキーワードで行ったが、代表例として自己省察につい

表 1. カテゴリー 1 の看護の資質に関する 22 キーワードの得点表

キーワード内容	学生資質指数	看護師資質指数	資質変化指数
1 自己省察	0.41	2.44	5.95
2 着実	0.45	1.58	3.51
3 自信	0.5	1.64	3.28
4 自らの役割を理解する	2.23	4.5	2.01
5 誠実	2	3.19	1.6
6 心の安静	2	3.08	1.54
7 余裕	1.27	1.72	1.35
8 優しさ	3.95	4.44	1.12
9 一般常識を身につける	4.32	4.14	0.96
10 教養	1.91	1.81	0.95
11 注意を集中させる	3	2.69	0.9
12 辛抱強い	2.09	1.89	0.9
13 強い意志・意欲	3.05	2.53	0.83
14 最善を尽くす気持ち (献身性)	5.41	4.47	0.83
15 品位	0.45	0.36	0.8
16 ほがらか	2.36	1.81	0.77
17 愛する心	1.64	1.25	0.76
18 注意深い	4.18	2.69	0.64
19 仕事の総体を理解する	3.59	2.25	0.63
20 慎重	4.73	2.58	0.55
21 変化の豊かさをもつ	1.5	0.69	0.46
22 清潔	3.73	1.36	0.36

注) キーワードごとに得点を抽出、総和し、年長看護師回答数の 36 で除して平均し「看護師資質指数」とし、学生にも同様の操作を行って各キーワードの「学生資質指数」を求めている。それらの比である「資質変化指数」を最右列で降順に並べている。

表 2. “自己省察” への学生と年長看護師による配点の分散分析表

【分散分析：一元配置】

概 要

グループ	標本数	合 計	平 均	分 散
学生省察	22	9	0.409090909	2.91991342
看護省察	36	91	2.527777778	11.97063492

分散分析表

変動要因	変 動	自由度	分 散	観測された分散比	p-値	F境界値
グループ間	61.29580286	1	61.29580286	7.146853094	0.009821162	4.012973319
グループ内	480.290404	56	8.576614358			
合 計	541.5862069	57				

表3. “自己省察”への学生と新人看護師による配点の分散分析表

【分散分析：一元配置】

概 要

グループ	標本数	合 計	平 均	分 散
学生省察	22	9	0.409090909	2.91991342
新看省察	30	84	2.8	10.37241379

分散分析表

変動要因	変 動	自由度	分 散	観測された分散比	p-値	F境界値
グループ間	72.5548951	1	72.5548951	10.01812374	0.002638877	4.034309546
グループ内	362.1181818	50	7.242363636			
合 計	434.6730769	51				

表4. “自己省察”への新人看護師と年長看護師による配点の分散分析表

【分散分析：一元配置】

概 要

グループ	標本数	合 計	平 均	分 散
学生省察	36	91	2.527777778	11.97063492
新看省察	30	84	2.8	10.37241379

分散分析表

変動要因	変 動	自由度	分 散	観測された分散比	p-値	F境界値
グループ間	1.212626263	1	1.212626263	0.107823112	0.743708182	3.990923688
グループ内	719.7722222	64	11.24644097			
合 計	720.9848485	65				

での分散分析表を示す。

まず、学生と看護師の分析では表2に示すように、観測された分散比、すなわちF統計量が7.1468でF境界値4.0129よりも大きいため、平均に差があると検定され、このときのP値は0.0098であった。同様に学生と新人看護師の分析では表3に示すように観測された分散比、すなわちF統計量が10.0181でF境界値4.0343よりも大きいため、平均に差があると検定され、このときのP値は0.0026であった。

看護師と新人看護師の間での分析では、平均値の差が殆ど無いため、結果は明らかであるが、表4に示すような結果が得られた。観測された分散比、すなわちF統計量が0.10782でF境界値3.9909よりも小さいため、平均に差が無いと検定された。

以下、他の7キーワードで検定を行った。着実、自

信、自らの役割を理解する、の看護師が高い価値観を置くものは統計的には差が無かった。しかし、学生が看護師に比較して最も重視した清潔は学生と新人看護師の間でp値が0.0008で平均値に差があると検定され、また、学生と年長看護師の間ではp値が0.012で平均値に差があると検定された。新人看護師と年長看護師の間には差が無いと検定された。したがって、清潔に関してはむしろ学生と新人看護師の間の差が顕著であるとの結果であった。一方、変化の豊かさを持つ、慎重、仕事の総体を理解するなどは統計的に差が無かった。

## 考察

カテゴリ1の看護の資質に含まれる数個のキーワードに関し、看護学生と就職後間もない新人看護師、より年長の看護師の3者の価値観を統計的に分析した。学生の配点に比し看護師が高い配点を与えた“自己省察”は、新人看護師でも配点が高く、平均値の差の検定にて学生と年長看護師、学生と新人看護師の間で統計学的に差があった。一方、年長看護師と新人看護師の間には統計学的に差は無かった。この結果より、自己省察について、新人看護師はその価値観が年長看護師に近いことがわかった。自己省察は看護の重要な価値観として学生に教えられるべきものと考えられる。

それでは、自己省察を促す教育はどのように可能であろうか。看護学の領域では、自己省察は近田<sup>14)</sup>により、ふり返り・省察・内省・反省などとして看護学生や看護師のみならず、人間としての成長や自己実現に重要であることが報告されている。看護教育に関して彼女は、学生の意味構成を支えるリフレクション、演習における新たな知識の再構成、などの表現で演習時の自己省察の訓練の可能性を示唆している。

一方、医学教育の領域でも自己省察はセルフ・リフレクションとして重視されてきた。最近、Epstein<sup>15)</sup>は医学教育のアセスメントの方法として筆記試験、指導的臨床家による教育アセスメント、直接観察やビデオの視聴、臨床的なシミュレーション、臨床チームや患者による教育アセスメント、ポートフォリオの作成など、6項目について詳細に解説している。彼はこのうちポートフォリオに自己省察が含まれることを特記し、それについて良い指導を行えば形式的なアセスメントから離れ、より総合的な教育を進行させうる事を指摘している。彼の例示するポートフォリオは膨大ではあるが、本学の一部にも取り入れ始められたその教育は、自己省察を含むことから今後もより計画的に発展させられるべきものと考えられる。加えて、長期の臨地実習では各領域ごとにそれぞれ反省会がもたれ、自己省察を促す良い機会と考えられる。さらに、本学の卒業研究が自己省察を含む場合もあり、この中でその教育が行われる可能性も開かれている。

“清潔”について、新人看護師の価値観は学生よりも年長看護師に近い事が証明された。このことより、上記の統計学的に有意であるもの2つは共に新人看護師の価値観が年長看護師に近いことが証明された。清潔に関しては学生時より反復的に教育され、病棟でも

消毒液などが常に病室等に配備されているため、新人看護師でも問題を感じず実行できるのであろう。これは学生教育がうまく行われたことの証左ではないだろうか。

以上、学生、就職直後の看護師、より年長の看護師、の価値観の差について第一カテゴリの中の分析を行った。この方法で客観的に選択されるキーワードから、今後はより根拠に基づいて教育やそのアセスメントが行われるものと期待される。

## 文献

- 1) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子：看護のアイデンティティ：看護大学生は看護職をどのようにとらえているか、西南女学院大学紀要、5: 1-8, 2001
- 2) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その2：看護の資質についての大学生と看護婦の価値観の相違とその意味、西南女学院大学紀要、6: 10-17, 2002
- 3) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その3：看護の行動パターンについての大学生と看護師の価値観の相違とその意味、西南女学院大学紀要、7: 19-26, 2003
- 4) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その4：看護職に重要な社会生活パターンについての大学生と看護師の価値観の相違とその意味、西南女学院大学紀要、8: 1-8, 2004
- 5) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その5：看護技術に関する大学生と看護師の価値観の相違とその意味、西南女学院大学紀要、9: 1-8, 2005
- 6) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その6：看護倫理に関する大学生と看護師の価値観の相違とその意味、西南女学院大学紀要、10: 1-9, 2006
- 7) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その7：看護のアイデンティティの自覚度を測定する簡易な質問表、西南女学院大学紀要、11: 1-8, 2007
- 8) Watson R and Lea A: The caring dimensions inventory (CDI); content validity, reliability and scaling. J Adv Nurs. 25,87-94,1997
- 9) Watson R, Deary IJ, Lea A: A longitudinal study into the perceptions of caring and nursing among student

- nurses. J Adv Nurs. 29, 1228-1237, 1999
- 10) Watson R, Deary IJ, Hoogbruin AL: A 35-item version of the caring dimension inventory (CDI-35); multivariate analysis and application to a longitudinal study involving student nurses. Int J Nurs Studies. 38, 511-521, 2001
  - 11) 八尋道子：倫理特性とケアリングのとらえ方から見た看護学生の価値観について. 長野県看護大学大学院看護学研究科、看護学修士論文. 1 -49, 2004
  - 12) 島田美鈴：看護のアイデンティティーの構造に関する研究. 常磐大学大学院人間科学研究科人間科学専攻修士論文. 1 -141, 1998
  - 13) 波多野梗子、小野寺杜紀：看護学生および看護婦の職業的アイデンティティーの変化. 日本看護研究会雑誌 21-28, 1993
  - 14) 近田敬子：リフレクションを意識した看護および教育ー成長し続ける職業人であるために. Quality Nursing. 7:4-6, 2001
  - 15) Epstein RM: Assessment in medical education. N Engl J Med. 356, 387-396, 2007

## Identity of Nursing (Part8): Estimation of the Nursing Endowment by New Nurses Being More Similar to That of Elder Nurses than Student Nurses.

Jiro Kudo\*, Hideko Oda\*, Keiko Kubota\*, Nariko Chuman\*\*

### <Abstract>

The purpose of this research is to clarify a nursing identity and to educate student nurses based on the results. We previously showed the results of an analysis of a survey concerned with nursing identity obtained from student nurses and nurses in 7 reports. In this paper, we show a comparison of the estimation of new nurses who worked 2 months with student nurses or with elder nurses using 8 key words concerning nursing endowment.

Questionnaires were sent to 59 nurses with 2 months experience, 58 nurses in their 2nd year and 63 nurses in their 3rd year who graduated from our university, and were also sent to the 99 1st grade students in our nursing course. Answers obtained from nurses with 2months experience, 2nd and 3rd year nurses and student nurses numbered 30, 36 and 22, respectively. The most important key word they selected was allotted 10 points, the second was 9 points and so on, then every point of each key word was processed in three databases for new nurses and elder nurses and student nurses, respectively.

Four key words which got a higher value from elder nurses in the previous study were analyzed with one way analysis of variance among the above three groups. Then the other 4 key words which received a higher value from students were also analyzed as above.

Among the 8 key words, “self-reflection” and “cleanliness” showed a significant difference in the evaluation between nurses and student nurses. The key word, “self-reflection” was more highly evaluated by nurses and “cleanliness” was more highly evaluated by students. The evaluation of the key words by new nurses was almost the same as elder nurses. The possibility of student education concerning self-reflection was discussed.

Key words: identity, nursing education, self-reflection, endowment, student nurses

---

\* Professor in the Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University

\*\* Associate Professor in Junshin-kai University of Nursing and Health Science.